

## 機友会ならびにしもつき会の皆さん、

お元気ですか。代読を伊藤隆基さんをお願いすることになった**大南**です。

本日の総会には、私はいま足腰を痛めてリハビリ中ですので、申し訳ありませんが欠席させていただきます。お元気な皆さんの前に前屈みで歩く姿を見てもらうのがつらいのです。今後は個別あるいは少人数での集りには参加できますが、多くの皆さんの前で挨拶することはご辞退しております。皆さんも歳をとれば、遭遇されるかもしれない心境です。

しかし、いいこともあります。いままで「上を向いて歩こう、涙が出ないように」の歌詞ではありませんが、私の妻がいいますように、上と前ばかりを向いて歩いてきた私ですが、最近では、前屈みになって、足下を見る時間が多く、静かにいままでを振り返ることができることです。家族のこと、研究・教育・大学行政・文化と文明・戦争と平和・天地大乱のことなどです。私にとって人生の賞味期限のとっくに過ぎた今日此頃ですが、いまが自分を賞味する時と思っています。「私は何をして来たのか」をゆっくりと回想し、「私の最も得意とすることを見極める」ことができることです。古代ギリシャ人の精神に「破壊のもうひとつの意味は新しく生まれ変わること、蘇生」という考えがあるようですが、まさにいまの人間と世界の現実、未来からのメッセージに記されていると思う昨今です。

## 立命館大学 機友会 第26回定時総会

よる12時、あさ6時起床の毎日のなかで、午前中は読書とパソコンに向かって昨日の思いをエッセイにしています。それが溜ったのが、いままで隔年ごとにまとめてきた私のささやかな『画文集』です。画文集で話題が時間的に前後するのはそのせいです。また、午後は、いままで国内外で多くの人と会い、を訪ね、大自然の生動を見つめてきたことを回想して、自宅でスケッチや油彩を楽しんでいます。夕食では、家内の好きな白ワインで乾杯しながらグラス二杯程度のワインを嗜んでいます。「大呑みの大南」は卒業です。「生かされて」を感謝する毎日です。

さて、いまの立命館大学の発展は目を見張るものがあります。卒業生と教職員一同互いに悦びたいと思います。これも立命館に学び、研究し、教え、仕事したすべての皆さんの努力の賜であり、国内外の各界各世代の多くの人々のお力ぞいのおかげです。ありがたく心から感謝いたしております。私の書齋にあります、私ども学園関係者が起草した『立命館憲章』には、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める、とあります。卒業生皆さんお一人おひとりには、元気で活躍され、日々の生活を大切にしてください。駄弁を弄したことをお詫びします。

2017年10月8日

大南正瑛 高槻にて